

東京2020ライブサイト等の見直しについて

1 ライブサイト等の意義

- チケットを持たない人でも競技中継を観覧し、大会の感動と興奮を共有
- 競技中継のみならず、スポーツ体験、開催都市東京の魅力発信、都民や各国のステージイベントによる文化発信、復興支援、産業振興など様々な機能あり

2 見直しの経緯

- 東京2020ライブサイト等については、実施に向け、専門家の意見を踏まえ、来場者数の大幅削減、事前申込制導入による来場の分散化など様々な感染症対策を検討するとともに、ライブサイト等が立地する地元自治体とも、丁寧に意見交換
- 一方で、大会時における人流が感染拡大につながる恐れがあるとの専門家や関係者から指摘
- 都内の緊急事態宣言措置を解除し、まん延防止等重点措置が適用されることとなり、引き続き、感染拡大を防ぐ必要
- また、昨日、IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・国の5者協議において、観客以外の人流対策として、ライブサイト及びパブリックビューイングについては中止又は規模縮小の方向で検討を行うことに合意
- こうした状況の中で、あらゆる可能性を検討した上で、ライブサイト等の実施方法を抜本的に見直し

3 見直し内容

(1) 都が実施する都内の東京2020ライブサイト等

- 集合型のライブサイト・パブリックビューイングは中止し、デジタル技術を活用した大会の盛り上げに転換

例：WEBを活用した選手応援や競技紹介

都民や各国のステージイベントなどをWEB発信

東京2020ライブサイト

<代々木会場・井の頭会場>

- ・競技中継は中止し、デジタル技術を活用し、選手応援や競技紹介、文化をWEB発信

パブリックビューイングを核とする盛り上げ会場

<日比谷会場>

- ・競技中継は中止し、文化・国際交流イベントは、無観客で行いWEB配信

<上野会場>

- ・競技中継は中止し、周辺の文化施設と連携し、文化発信

< 都立大南大沢キャンパス講堂・調布駅前広場 >

- ・競技中継は中止し、周辺イベントは、WEB 配信に集約

- ワクチン接種を加速化させるため、ライブサイト会場等を接種会場への転換を検討

東京 2020 ライブサイト

< 代々木会場 >

- ・オリンピック期間のみを予定していたワクチン接種会場の利用は、パラリンピック期間までの転用を検討

< 井の頭会場 >

- ・地元自治体と協力し、ワクチン接種会場への転用を検討
パブリックビューイングを核とする盛り上げ会場

< 都立大南大沢キャンパス講堂 >

- ・都立大学と連携し、大規模ワクチン接種会場への転用を検討

< 調布駅前広場 >

- ・地元自治体と連携し、ワクチン接種の拡充を検討

(2) 都が実施する被災地の東京 2020 ライブサイト

- 都が実施を予定している被災地のライブサイトは、岩手県、宮城県、福島県の東北 3 県と熊本県
- オリンピック期間中の 4 日間、パラリンピック期間中の 2 日間の開催を予定
- 4 県では地域の感染状況が異なるため、地元自治体と丁寧に意見交換を行い、意向を踏まえながら、今後調整

(参考) 被災地の東京 2020 ライブサイト (予定)

会 場		開催日時
岩手県	【オリンピック期間】 盛岡城跡公園	【オリンピック期間】 4 日程度
	【パラリンピック期間】 JR 盛岡駅前滝の広場	
宮城県	【オリンピック・パラリンピック期間】 勾当台公園	
福島県	【オリンピック期間】 鶴ヶ城公園	
	【パラリンピック期間】 アクアマリンパーク	
熊本県	【オリンピック・パラリンピック期間】 熊本城ホール	

(3) 区市町村が実施するコミュニティライブサイト等

- 観客以外の人流対策として、ライブサイト及びパブリックビューイングについては中止又は規模縮小の方向で検討を行うことを区市町村に周知するとともに、実施する場合には、感染症対策を徹底して行うよう、区市町村の取組に協力